

★漢方あれこれ★

◆身近な薬草◆



くちなし、山梔子

太田 順康

梅雨のじめじめした気候になってきました。夜の散歩に出かけると、ほのかに浮かび上がる白い花とともに湿気を払いのけるような芳香がして来ます。

「くちなしや 夜の散歩の 道しるべ」(詠み人知らず)です。

くちなしの花です。アカネ科の常緑低木で静岡以西の低山帯や中国に自生しています。

園芸品種も多くありますが、果実を薬用、食用、着色料に使用されます。

クチナシとは果実が開裂しないので「口無し」と言われるようになったようです。無口だからクチナシと云うのではないようです。冗談はさておき薬にするのは、この果実です。

くちなしの実「山梔子」は前回の牡丹皮、芍薬などと同じ漢の時代の「傷寒論」「金匱要略」などの医書に記載されている古い生薬です。

一番古い本草書「神農本草経」には「邪気を取り、胃中の熱気を取り、顔の赤みや、鼻の頭の赤み、蕁麻疹などの皮膚病に良い」と書かれています。

邪気を取り、とは消炎作用と考えて良いでしょう。腫れて熱を持ち赤くなっているものに内服、外用ともに用います。内服には1日5gを煎じて飲みます。外用には実の粉末に等量の小麦粉を加えて酢で練ってつけます。打ち身などで赤く腫れている時に良くききます。また興奮して眠れないときに煎じて飲むと良いでしょう。口内炎、歯肉炎などに矢張り煎じた液でうがいしたり、服用すると良く効きます。

食道炎や食道ポリープなどで嚥下困難なときに煎じて服用すると通りが良くなります。

実際に食道ポリープが見つかり、手術までの気休めにとクチナシを煎じて飲んだら、牛乳がやっと通った咽喉が2、3日立つと楽になりすーっと飲めるようになり、数日で何ともなくなり、再度診察して貰うとポリープが無くなっていて手術しなくて良い事になった漢方の先生があります。

梔子に黄連、黄芩(こがねばな)、黄柏(きはだ)を混合した漢方薬「黄連解毒湯」は、炎症や出血、に良く使われます。皮膚病で赤く痒く掻きまわっているとき、口内炎、顔が赤くのぼせている、高血圧症、不眠、黄疸、など広範囲に応用されています。



在禅洞

すこやか教室 山歩き

曜日と時間： 毎週金曜日 10:30～

☆雨のときは、中止します。

☆お茶など飲み物を持参

<7月の予定>

7日(金) 14日(金) 21日(金)

28日(金)

相変わらず気温が低かったり高かったりの毎日です。梅雨なのに雨が降りません。そして地震。長野県南部の地震は岐阜市でも揺れました。木々がそよぎ、小鳥たちがさえざります。私たちもおしゃべりしながら、元気に歩きましょう。暑くなってきましたから、お茶を忘れず持参しましょう。



§ 漢方相談日

(担当 太田順康：日本漢方交流会認定漢方終身師範。岐阜県漢方研究会会長。岐阜薬科大学「漢方学」講師) 今月の漢方相談日は、下記のように。

3日(月) 10日(月) 24日(月)

§ 7月の休診日

17日(月・祭日)

§ 甲状腺エコー検査を始めました。

ご希望の方は、受付までお申し出ください。



他にも山梔子が配合されている漢方薬は黄疸、蕁麻疹、胃炎などに使われています。

お正月のお節料理にある、「きんとん」の色付けにさつまいもを煮る時に実を砕いて入れて置くと綺麗な黄色に仕上がります。

「クチナシや鼻から下はすぐに顎」などと馬鹿いってるのは私だけですが、上手に応用すると色々な病気を治す事が出来ます。

但し冷や症の人には苦くて飲めないことがあります。冷やし過ぎになることがありますので無理に飲まないようにしてください。

(つづく)